

出句用紙(番号) /

作者名

桃

僧坊の水面に蛇のるる昏々

また守宮来るかと母の厨の灯

寺清水紅一点の鯉眠る

木天蓼の白き三片の反射光

炎天や鳩の啄む米の焦げ

南柯句会

2.

27

作者名

花山

2番 手前 土

薄色や矢車草の夜明け前

花盛る矢車草の夜明け前

蘭竹序はえある明日蟬生る

這にずりて蟻一匹の火火天下

来る夏やぐるまそうも盛なりかは

南柯句会

2. 1
 2. 2
 2. 3
 2. 4
 2. 5
 2. 6
 2. 7
 2. 8
 2. 9
 2. 10
 2. 11
 2. 12
 2. 13
 2. 14
 2. 15
 2. 16
 2. 17
 2. 18
 2. 19
 2. 20
 2. 21
 2. 22
 2. 23
 2. 24
 2. 25
 2. 26
 2. 27
 2. 28
 2. 29
 2. 30
 2. 31
 2. 32
 2. 33
 2. 34
 2. 35
 2. 36
 2. 37
 2. 38
 2. 39
 2. 40
 2. 41
 2. 42
 2. 43
 2. 44
 2. 45
 2. 46
 2. 47
 2. 48
 2. 49
 2. 50
 2. 51
 2. 52
 2. 53
 2. 54
 2. 55
 2. 56
 2. 57
 2. 58
 2. 59
 2. 60
 2. 61
 2. 62
 2. 63
 2. 64
 2. 65
 2. 66
 2. 67
 2. 68
 2. 69
 2. 70
 2. 71
 2. 72
 2. 73
 2. 74
 2. 75
 2. 76
 2. 77
 2. 78
 2. 79
 2. 80
 2. 81
 2. 82
 2. 83
 2. 84
 2. 85
 2. 86
 2. 87
 2. 88
 2. 89
 2. 90
 2. 91
 2. 92
 2. 93
 2. 94
 2. 95
 2. 96
 2. 97
 2. 98
 2. 99
 2. 100

出句用紙(番号3)

作者名 山本 正晴

0		00	0	
稚児揺るる四糸の辻の青さ竹	冷麺 ^や カラスの皿に種と軸	新園会や幾改の紐踊る	遠雷やちぐらの奥に丸眸	火天や大樹の影に後数歩

出句用紙(番号4)

作者名 善野 娘

火天に總身晒せる若さかな

逆転に沸く火天のスタジアム

火天や陶の狸の火ふぐり

火天を経て幽明の阿弥陀佛

火帝に農引き継ぐと告げにけり

南柯句会

出句用紙(番号 5)

作者名

文蔵

丸山へ蛇行剣ごと白雨刺す

髪洗ふ人間ドックの米印

おもひけ
弟の鯔鮓呑み込む半夏生

古やしろ醫や稿蚊の二十三針 はたみはり

靴の泥無人ホームの梅雨の星

出句用紙(番号 6)

作者名 山崎 たか

主 〇〇	屋久島や一夜に五日をへ変える滝
	はみこ 大川の滝水煙一巡山頂へ
〇	夏御膳酒一口にふたの風
	さら るに触れしときとゆくり色づきの
	炎帝を良弁杉の射抜きある

出句用紙

(番号

7)

作者名..(安藤)

英彦

			○	
		泥中の蓮を散華にひめゆり忌	旅枕星と蛩の小宇宙	実を染めて葉越しに隠る梅の艶
		梅雨晴や誘引のつる奔放に		
◎	兼題句	炎天や陰を導に遠回り		

さんげ

はご

かげ
しるべ

出句用紙(番号⑧)

作者名 上田秋霜

○	○○	○○○	○○○	○ ^天
似合ふのは裕次郎だけサングラス	背月後より水鉄砲で撃ちたれけり	帰省子の多弁気になる夕餉かな	串刺しの竹も焦がして鮎を焼く	炎天の若草山に逃げ場なし

出句用紙

作者名 藤 久 三

孔明の如き葉裏の蝸牛かな	大國のエゴを待ち越す半夏生	いさかいの幼 ^{おと} 見 ^み 黙 ^{もく} すかき氷	半夏雨上がる小径の草いきれ	火 ^ひ 昼 ^{ひる} の龍 ^{りゅう} 衣 ^い ひくるとゴッホの黄
--------------	---------------	--	---------------	---

出句用紙

10

作者名 平華

〇〇〇	車いすを押した夏の日はいまふとり
〇	頂くも贈るもやはり夏野菜
	夏北元カレと行くジャズ喫茶
〇	梅雨明けでやまりとさするふくらはぎ
兼	炎天の公民館に囲碁の音

出句用紙(番号11)

作者名 近藤和草

○	大原女に薄化粧して雪の下
	葉隠れに托す卯塊池涼し
○	苔を抱き声探りをり夏椿
○ ○ ◎	熊鈴は二つ夏山に一礼
○ ○ ○	火火天を沈めて黒き太平洋

南柯句会

出句用紙(番号 12)

作者名

関 洋子

炎天を集める子らの後頭部

二時間の散歩の褒美二重虹

ハンケチを代貝して始まる恋もあり

朱夏のピッチハ咫鳥のインブレム

足元にペタリ着地の雨蛙

南柯句会

出句用紙(番号 13)

作者名 福田洗弥

〇〇〇	梅干しや老犬となるぬいぐるみ
〇〇	すててこやお皿の端にマヨネーズ
〇〇	所在なく冷蔵庫開く三時かた
	公団にマンパンマン号炎天下
〇	サイダーや歯列正しき頭蓋骨

南柯句会

出句用紙・作者名・宮本孝司

炎天へ拳突き上ぐサッカー場

炎天のライスカレーと幟旗

炎天へ山鉾高し京の空

炎天の涯まで青の信号機

風鈴の揺れない街の鉄工所

Utsunomiya City
Utsunomiya City

Nalomachi-Hashidume

出句用紙・作者名・山本わこ

15

〇〇
㊦㊦
ただいまの「ま」の音上がり夏の雲

〇〇
炎昼やレシピ不要の男飯

初夏の候血を流しつつ生きてます

著莪の花鼻汁の頻度問われけり

〇〇
黒南風や煎じ薬の微調整

出句用紙・作者名・鮫島しょうん

炎天や塑像の瞳黒々と

青ぶどう兄になる日をまだ知らず

全身に覇気らしきもの蚊遣香

口きかぬ人へ初どりミニトマト

梅雨晴や車輪は雲を踏み砕き

17

出句用紙・作者名・横田清史

〇〇腕時計外して気付く日焼けかな

青空に紅白そよぐ合歓の花

梅雨明けは明けてましたとニュース聞く

〇〇〇中学生になっただけの青田かな

〇〇〇炎天やフル装備するベビーカー

出句用紙・作者名・富野香衣

炎天へ麒麟は首をもてあまし

梅雨明や洗ひ晒しの空と風

幸せはあなたと淹れし夜の新茶

どさくさに指を絡めて大花火

ガウデイの塔は炎天突き抜けり

出句用紙(番号 19)

作者名 山下疾風

○ 兼	炎天や色には出でず稚児 ちご 赤 か ん ぞろ
	ハケ龍成 かじもり りを解 と けばメロンに老婆 らうば の手
	暗闇 くらやみ に日焼 ひやけ 子歩 は く齒 し の白 しろ し
	独 ひと り来 き てテレワークなり避 ひ 暑 しよ の宿
○	パーを出しパイナツプルで六歩 ろっぽ 跳 は ね

作者名 へちま

〇	〇〇	〇	〇〇〇	〇〇
月涼し曲がりくねった峠道	サンタルのジャンボんとひらく梅	午居平華博覧強記含羞草	濠の亀一生ここに蓮の花	父天や耳鳴りといふ管楽器

ふいぎ草

出句用紙(番号 21)

作者名 二 晁

〇〇	古墳より今年の蟬いせいに
	蛇口開け給水タイム炎天下
〇〇	田植終へ道に数多の泥乾く
	炎天を来て脳みその白黒に
	図書館より博物館へ夏木立

出句用紙

白井桃紅

⑥ 達筆^な暑中見舞いの青い文字

〇〇 熊出ると言われし山の山開き

〇 寝苦しき夜や夏掛の頼りなき

七夕や小学生の痴話喧嘩

〇 炎天の誰も使えぬ遊具がな

出句用紙(番号 24)

作者名 飯田 守彦

炎天ハイエヌの塔の従耳えけり

彷徨へる蔓の生なり梅雨の雲

中空に影の生まいて揚羽蝶

茄子の花自分の所為とわかりつつ

往来の途切れて城下七変化

炎天や稜線ゆがむ生駒山
掬^すえない金魚掬いや目に涙
恋心静かに噴火雲の峰
夕闇や茅の輪をくぐる三輪大社
炎昼や患者のいない昼下が

出句用紙(番号 26)

作者名 友澤 一途

大ジョッキ五つ抱え来ピアホル

帰省路や中島みゆきを歌巡る

水遣りの朝の花や病葉へ

十
晴れるなと想ふ午後 あり五月間日者

火天や後一週のコインチキテン

南柯句会

出句用紙(番号 27)

作者名 真一

		〇〇		
炎天の気だるさ既読スルーする	松陰にたたずむ辰の盛夏かな	穂合月 ほふみづき 校舎に郷音 とよ む子らの声	短冊の願いしなりて七夕祭	緑陰のカフェ朝聴くヴァルデー